

特集 愛飲者インタビュー

岡山の治療院と 患者さん SODが結ぶ縁で 薬いらず、医者いらず

日本
SOD
研究会報

発行元 日本SOD研究会 宮城
住 所 〒 158-0094
東京都世田谷区
玉川 1-15-2 B 棟 2802
TEL. 03-5787-3498
協力：株式会社丹羽メディカル研究所
<http://www.niwa-medical.com>

今回の愛飲者インタビューは、岡山で整体院を営む三木英貴院長とその患者さんの横山敦子さん（73歳）の二人。実際にお会いして、いろいろなお話をうかがってきました。三木先生は、がんを患っていた義父を土佐清水病院に連れていき、実際に丹羽先生の治療を目の当たりにしました。また、丹羽先生の講演会にも行かれ、丹

羽療法に深い理解をお持ちです。そんな三木先生の患者さんの横山さんは、近所では有名な面倒見のいいスーパードアおばあちゃん。三木先生の治療のおかげで今は元気いっぱいなのだとか。

お二人からどんな話が飛び出してくるのか、心躍る想いで岡山に向かいました。

SOD愛飲者
インタビュー

完治が難しい突発性難聴が
SODですっかり完治

岡山県にお住まいの横山敦子さん（73歳）

横山さんと三木先生がお住まいの町は、岡山県の備前市。瀬戸内海に面し、小さな島々とおだやかな青い海を臨む、美しい町です。山陽新幹線で西に向かい、岡山の手前、相生駅からローカル線に乗り換えます。電車のドアが自動ではなく乗客が降りる際にドア横に

ついているボタンを押すという、なんともどこかな体験を経て、寒河という小さな無人駅に迎えに来てくださったのは横山さんの長女、かずえさん。三木先生の治療院のスタッフでもあります。彼女が運転する車窓から望む瀬戸内海の海岸線は絶景。入り江を結ぶ橋から

は海に浮かぶいかだ状の牡蠣棚も見られ、冬に訪れた人は取れたての牡蠣をいただけるとか。

そんな風光明媚な町で日々を過ごしていたらっしゃるのが今回取材させていただいた横山敦子さん。こちらに嫁ぐ前は岡山で看護師さんをしていて、嫁いでは近所の歯科医院で助手として勤務。二人の娘さんも保育士、整体師、看護師という資格を持ち、身体のことには詳しいご一家です。ご連絡をくださった長女のかずえさんが整体師の資格を取られ、三木先生の整体院で働く傍ら、実家の敷地内に設けた治療部屋でも近所の方に施術されとか。

そして敦子さんは自宅の庭と近くにある畑で四季折々の野菜や果物、お花を栽培するのが趣味。と聞くと日々のんびり過ごしているのかと思いきや、

「それがね、いつときもじっとしていないんですよ。近所のお年寄りのお世話に走り回っているんです」

娘のかずえさんがあきれ顔で話

してくれました。なんでも、近所の足の不自由なお年寄りの日常の買い物をしたり、入院したお年寄りの飼い猫の世話をしたり、その人の庭の草むしりをしたり、とにかく忙しい。毎週土曜日には朝4時半に起きて近所の障害者施設に朝ごはんを作りに行っているとか。野菜作りも家庭菜園かと思いきや、朝市に出荷するというくらいとても趣味とは言えません。

「みんなが、おばあさんはいつ来ても家におらん。世界でいちばん元気なおばあさんだって言うんですよ」

とほがらかに笑う敦子さん。

「これもSODのおかげかもしれんね」

とおっしゃいます。実は、今回ご連絡いただいた経緯は、6年前に突発性難聴を発症したことがきっかけでした。その時のことを敦子さんは日記に記していました。

「2012年1月10日ですね。熱っぽくて、耳のあたりが腫れて痛かったんです。孫の風邪がうつったのかと1週間くらい我慢していたん

ですが、さすがに1週間も治らないから、近くの耳鼻科で診てもらったんです。そうしたら、これは風邪じゃなくて中耳炎と蓄膿症になっていると言われたんです」

顎から耳にかけての痛み、耳から膿が出る、などの症状から何らかの細菌が耳に入った中耳炎か蓄膿症という診断だったのでしょう。その日から毎日、耳を切開してチューブを入れ、そこから膿を出す治療をもらったのですが、

「抗生剤もちゃんと飲んで、毎日、膿を出しに通ったのにぜんぜん良くなかなかったんです。病院で診てもらってから10日たった頃、急に耳が聞こえなくなったんです。先生も驚いて、これはもっと大きい病院に行って調べたほうがいいと言うので、24日に岡山の大きな病院に行っただんです。そうしたら突発性難聴だと言われました」

突発性難聴とは、厚生労働省のe-ヘルスネットによると、突然、耳の聞こえが悪くなり、耳鳴りやめまいなどを伴う原因不明の疾患です。40〜60歳代の働き盛りに多

くみられ、ストレスや過労、睡眠不足、糖尿病などがあると起こりやすいことがわかっています。聴力を回復させるには、早めに治療を開始することが重要だといえます。

その治療法は内服や点滴の副腎皮質ステロイド薬による薬物療法が中心になるそうです。十分に回復しない場合や全身投与が難しい場合は、耳の中にステロイドを注入する「ステロイド鼓室内注入療法」が行われることがあります。効果に対する評価は定まっていますが、発症後1週間以内に、それらによる適切な治療法を受けることで、約40%の人は完治し、50%の人にはなんらかの改善がみられます。ただし、治療開始が遅れば遅れるほど治療効果が下がり、完治が難しくなってしまうので、注意が必要とか。発症後すぐ治療を受けないと、難聴や耳鳴りが残ったり、聴力を失うこともあるため、早めの受診と治療開始が大切だとか。

敦子さんの場合は病名が分から



横山さんご夫妻と長女の宇高かずえさん

ず、突発性難聴を発症してからすでに3週間以上が経過していました。

「先生は、ステロイドを毎日飲むか、点滴で入れるかだと。毎日通うことができないなら入院したほうがいいというんです」

いずれにしてもステロイド治療しか方法はなく、完治するかどうかも分からない状態でした。

「ステロイドというのが使ってもいいのかどうか、不安で先生に聞いたら、使い続けると骨がもろくな

るという副作用はありとわね、そのときに看護師をしている次女が、ステロイドは使わないほうがいいんじゃないかって言うてくれたんです。ならどうしようってなったときに、長女が三木先生に相談してみよう」と

長女のかずえさんが勤める三木整体院の院長のことは、このインタビューの後半で詳しく紹介しますが、とにかくこのとき横山さんご家族はいろいろ話し合って、ステロイド治療よりも東洋的治療を選んだのです。

「三木先生に、まずはSODを今日からすぐ一日12包ずつ飲みなさいって言われて、がんばって飲みました。始めはやっぱり水で流し込まないと飲めなかったのですが、途中から水なしでも大丈夫になりましたね。そうしたら、

ちょうど1週間後。耳が聞こえるようになってきたんです。嬉しかったですわ」

先生に言われた通り、SODは1か月間、毎日12包飲み続けたそうです。

「今は一日に4〜6包くらいかな。体調に合わせて増やしたり減らしたり。ちょっと疲れたと思ってても、SODさえ多めに飲めばすぐ元気になる。これはすごいもんやね」

今ではご主人も愛飲者だとか。75歳になるご主人は、2年前の検査で腎臓に異常があるかもしれないと言われたそうです。

「近所の病院でCT検査したら、腎臓に何かあると言われて、岡山市にある腎臓の専門病院に行ったらちゃんと診てもらったんです。そうしたらやっぱり何かあると。がんかもしれないって言われたんです。自覚症状もないし、はっきりしないから、しばらく様子見てみようって言われて、すぐにSODですわ。一日に6包飲み始めて、2年。その間に何回か検査しているんですが、影のようなものは大

きくも小さくもなっていないんです。なによりも本人が元気ですくらいいいんですよ」

そんなご主人も、近所の世話係をかって出る人気者。現役時代は普通の会社員で、リタイア後は奥様いわく

「何でも屋ですわ。日曜大工みたいなことが昔から得意で、それが高じて今はあっちこっちの家の修復やら、庭木の手入れやら、頼まれたらなんでも手伝っているんですわ」

夫婦そろって近所から引張りだこ。病気になるっている暇なんかありません。

「ありがたいことにすっかりSODに頼りっぱなし。あれはすごいなと思ったのは、病気だけじゃなく、アトピーにもいいんですよ。主人が疲れたりすると頭の中に吹き出物がずっとできていたんです。娘のかずえ、孫にもそういうのって遺伝してて、みんな軽度ですがアトピー体質を持っていたんです。それが、SOD飲むようになって気づいたら治っていたんですよ」

今では敦子さんが年に一回健康診断に行く、病院の先生から

「あんたはオバケかね。どこも悪いところがないって言われます。ちょっと血圧が高いけど、歳をとったら高いのは当たり前と、三木先生も言うから気にしてませんわ」

おそらく今、日本のほとんどの65歳以上の高齢者は、中性脂肪が、血圧が、腰が、ひざが、と言って何かしらの薬を常用しているはずです。しかし敦子さんのような人は高齢者というわけではないのかもしれない。SODがその健康に一役買っているとはいえ、プラス、毎日が分単位で忙しく立ち働き、人のためになることが大好きという生き方が元気の元なのでしょう。

帰り際、お庭で採ったばかりの真っ赤ないちごを振る舞ってくれました。愛情いっぱいに育った甘いいちごでした。ごちそうさまでした。



SOD愛飲者 インタビュー

ほとんどの疾病はSODで 丹羽先生との出会いや 17年間の経験と実績が 整体院の枠を超えた

三木整体院 三木英貴院長 57歳

今年57歳になる三木先生が整体院を始められたのは17年前、40歳になる直前のことでした。全く畑違いの転職でした。

「普通に町の水道屋さんでした」

それがどうしてまた、という話からインタビューは始まりました。「水道屋さんに移めるとき、いろいろあつてうつ病になったんですよ。友人の死、家庭内のことなどが重なって、ストレスフルになったんでしょね。ある日、急に過呼吸で倒れ、どうにも起き上がれなくなつて、救急車で病院に運ばれたんです。その時に初めて、うつ病の一種だと言われたんです。今でいうパニック障害ですね」

そこから実に10年もの間、うつ病の中にいたと言います。厚生労

働省の調べでは、うつ病の患者は年々増え続け、今は100人に3〜7人の割合でかかる病で、決して他人事ではないそうです。

当然、仕事もままならず、どんな窓際に追いやられ、周囲に迷惑がかかるからと、最後は自分から退職したそうです。

「その間、いろんな治療しましたよ。最初は病院で神経系の薬をもらつて、カウンセリングもやっていくけど、ちつとも良くならん」

普通の病院に行つても、抗うつ剤、精神安定剤という名の睡眠薬の部類を処方されるとか。脳神経の一部をマヒさせるだけだから改善は難しいと言われています。

「医者に行つても治らないとなると、次は、漢方、整体や鍼灸、鍼治療、

あんまといった東洋的な治療になりますよね。いろんな人がいろんなものを紹介してくれるんです。しかしどれも効果なんかない。そうすると最後は怪しいもの、霊媒師やら宗教に行きつくんですわ」

軽妙な口調で笑う三木先生。確かに、がん治療でも最後は怪しいところに行きついてしまうことが多いと聞きます。

「いろんな呪文を唱えましたよ。でも、どんなに祈つても治らないんです。当たり前ですよ。祈つて治るのなら医者も薬も、僕らもいらないんです。治らないからみんな奈落に沈んでしまうんです。僕も、天井を仰ぎながらどうしたら治るんだろうつて祈っていたんです。ところが、次第にあほらしくなった。そんなときに天井に一条の光が降りてきたんです。錯覚かもしれないし、なんかの自然現象や光の加減かもしれないんですが、なんか突然、お前は、治してほしいの一点張りだが、もし治してもらったら代わりに何ができるんだ。何をするんだ。という言葉が頭の



治療室には先生直筆の座右の言葉が。文字にも味があります。

中に出てきたんです。その時にパツと我に返りました。そういえば僕はお返しを何も用意していない。お願いするばかりで、自分は世のために何もできない、と気づいたんです」

このひらめきはあくまでも個人の感じ方だから、と言いつつながら、神のお告げというものがあるとするれば、それは自分の中の考え次第かもしれない。

「それから数か月、自分は何がでるのかを考えました。そして出し

た答えが、そうか、自分がうつ病になったのだから、うつ病の人の気持ちかわかる。うつ病の人の話を聞いてあげられる。そう思ったんです」

そうしたら1か月後、知り合いから整体師にならないかという話が舞い込んできたそうです。

「後で知ったのですが、丹羽先生も白血病の息子さんを抗がん剤治療の果てに亡くしたあと、医者止めようと思うくらい落ち込んだけれど、ある時、神のお告げのように、

抗がん剤に代わる薬を開発しなさいと言われ、開発にいそしんだと聞きました。それと同じということおこがましいですが、人にはそういう天命、使命があるのではないかと」

整体師になると決めてからはうつ病の症状は全く影をひそめ、普通の人で2〜3年かかる整体師の資格をたったの1年で取得すると、この地で開業したのです。

末期がんの義父と丹羽療法SODとの出会いが転機に

三木先生が丹羽先生やSODのことを知ったきっかけは、8年前にさかのぼります。

「僕の妻の父(義父)が胃がんになったんです。わかったときにはステージⅢBで、手術をしたんですが、医者からは5年もたつたらいいと言われました。案の定、その2年後に再発。リンパ節に転移して、腹膜にも発症が起こっていたんです。医者は余命1か月半くらいですが、抗がん剤しますか? って言われて、

僕は先生の家族がこのような状態だったらどうしますか? 抗がん剤治療をしますか? と聞いたのですが、いや私があなたに聞いているんですって言うだけで、はぐらかされた」

抗がん剤治療をしてどれくらいの延命効果があるのかも聞いたところ、個人差があるから一概にはいえないが、1年〜2年。3年生存はゼロと言われたそうです。

「ぼくがあまりにもしつこくいろいろ聞くものだから、そのうち医者も面倒だと思ったんでしょね。そんなに心配ならセカンドオピニオンしていいですよ。どうぞ行ってください、って言われたんです。そのときに僕は、あ、もう医者は頼りにならない。ダメだと思いました」

ならどうする、となったとき三木先生の頭をよぎったのが、時々整体院に届くSODの会報でした。「そうだ、丹羽耕三や! それしかない」とひらめいたんです」

整体院には毎月いろいろなダイレクトメールやセールスの電話が

あります。そんななかでとつさに丹羽先生の名前が浮かんだというから、驚きです。そのうえ義父さんのお住まいが土佐清水病院のある高知だったことも何かの縁だったのでしょうか。しかし、実際に診察に至るまでは紆余曲折ありました。予約の電話を入れてから2週間後に大阪で診察の予定が、悪天候で飛行機が飛ばず、さらに2週間後に伸びたこと。

「義父の余命は1か月半。2週間心待ちにしたのにさらに2週間では死んでしまう。必死でした。何度も受け付けのお兄さんとやり取りをしましたね。そうしたら、キャンセルのあった翌日、高知のホテルのロビーで待て、という連絡をもらったんです」

丹羽先生と初めて会った高知グランドホテルのロビーの光景は今でも鮮明に覚えているといいます。車から降りてくる丹羽先生のしぐさ、歩き方。こちらから声をかけると、

「お前がカバチか（土佐弁で理屈屋のこと）と言われました。何度も

電話して粘ったから、そのことが先生にも伝わっていたんでしょね。でも、僕もひるみません。そうです人の命がかかっていますからと言いました」

そのまま丹羽先生はロビーで義父さんの検査データやCT画像を見て、ひとことこう言ったそうです。

「おっちゃん、わしが助けたる。3日後に土佐清水に来いよ」

そして別れ際に丹羽先生は三木先生に

「兄ちゃん、ええか、わしのことよう勉強せいや」

と声をかけたそうです。

それから三木先生は丹羽先生の書籍などを読み漁り『がん治療究極の選択』（講談社）に至ってはすべて暗記したと言います。活性酸素と病気のメカニズム。アトピー性皮膚炎、膠原病、がん、すべての病気に関わる大気汚染、化学薬品、化学食品汚染。整体師として様々な患者さんの治療にあたっている中で疑問に感じていたことがすべてストンと収まっていく、納

得できていくのを感じたそうです。

「義父が入院中、2回ほど土佐清水病院に行きました。マグニー石のサンドバスや生薬、丹羽式整体部屋もあって、勉強になりましたね。

僕が丹羽先生のことをきっちり勉強してきていると分かると、先生も全身全霊で応えてくれました。退院後に十二指腸に転移が起こり、

狭窄したのですが、そこにバイパスを入れる手術も、保険のできる

ように手配してくださったし、なにかと連絡をくれて、最後まで親身にケアしてくれました。結局、

義父は9か月後に亡くなりましたが、余命1か月未満だったのに9か月も苦しまずに生きることができたのですから」

SODのいつならなんでも 答えられる極上の案内人

こうして三木先生とSODとの付き合いが始まりました。

「義父が入院と同時にまずはSODを取り寄せました。これが丹羽療法の基本中の基本ですから。以来、

うちの治療にSODは欠かせません。逆をいえば、SOD以外は勧めません。それだけの効果が出ているからです。整体院をやっているといっぱい健康食品やサプリ、健康機器のセールスがきますけど、ほんとうに効くものなんかない。活性酸素が関わる病気の9割はSODで治せると思います」

ですから三木先生のもとには単に整体で来る患者さんはいないのだとか。冒頭の突発性難聴になった横山さんを始め、西洋治療や他のカイロプラクティックなどで治らない人がやってくるとか。

「マッサージだけ何分して気持ち良くしたいという人はお断りしているんです。ほとんどがロコミで、メニエール病、ぜんそく、アトピーといった、およそ整体とは関係なさそうな患者さんがきますね。全部、SODで良くなります。横山さんの突発性難聴も、SODだけです。僕は何もしてないですよ。ちよっと整体やって、あとはSODにお任せです。患者さんから先生なんかいいものない？と聞



三木院長先生

「できれば、即答でSOD!です」
もちろんスタッフも先生も愛飲者です。

「やっぱりこういう仕事は、施術する側が元気でないとできない。だから、今日は大変な患者さんが来るぞ、というときは事前にSODを多めに飲むんです。8〜10包は飲んで待ち受けます」

そんな先生が最近、唯一、導入したものがあります。それはニュー

スキャンという健康管理機器です。周波数によって身体全体の状態を調べるもので、これを導入してからなおさら治療判断に自信が持てるようになったとか。

つくづく不思議な先生です。インタビューにおじゃまして、こんな田んぼの中の一軒家で本当に整体系が成り立つのかと思いました。が、すごく居心地がいいのです。よくよく見まわすと、田舎町のど

こにでもあるような、けばけばしい看板や、コンビ二などが全くなく、周囲にわずらわしいものが何もないという環境。それだけで、もう空気が違うように感じました。

こんなところで開業なんて、という人もいたそうですが、こんなところだからこそ、と選んだ場所だとか。人が元気になる環境がここには

ありました。

余談ですが三木先生、シンガーソングライターの長渕剛さんに似ているんです。そのこともあって、がんで末期の長渕ファンの患者さんの前でロパクモノマネコンサートをした経験があるとか。『なかなかつよし』という芸名までつけて、「病気の人が喜んでくれるなら、元気になるってくれるなら、僕らはSODという健康への道のりの観光案内ガイドをします」

その心意気に惚れてしまいます。

SOD様作用食品 体験者の声をお聞かせ下さい。

難病で苦しむ方たちが、少しでも早く良い治療法に行き当たるように、本誌では愛飲者の声を募集しています。お手数ですが、

〒158-0094 東京都 世田谷区
玉川1-15-2 B棟2802

日本SOD研究会 宮城宛
Tel 03-5787-3498

までご一報下さい。

◆丹羽先生診察ご希望の方は

御紹介、御予約いたします。

※自由診療となります。

丹羽メディカル研究所

☎ 0120(731)175

もしくは

日本SOD研究会

☎ 03(5787)3498

まで お電話ください。

●SOD様作用食品とは●

丹羽博士の開発

SODとは、スーパーオキシド・デイスムターゼの頭文字をとったもので「活性酸素」を取り除く「酵素」のことです。

最近、健康の力ぎを握る物質として「活性酸素」と「SOD」の働きと役割がクローズアップされてきました。そして、活性酸素が体内に増加すると、がんや生活習慣病など、さまざまな疾病を引き起こすことが明らかになってきました。

体内に活性酸素が増えても、本来、人間や動物には余分な活性酸素を取り除くSODという酵素が存在していて、病気を防ぎ、身体の健康を守ってくれます。ところが、現代社会の弊害（公害、薬害、食品添加物の害）などが、活性酸素を暴走させていて、体内のSODだけでは追いつかなくなっています。

しかし、残念なことにSODという酵素は分子量が大きいため内服しても胃で破壊され、腸から吸収されません。それを、内服できるように研究されたのが丹羽SOD様作用食品です。

開発した丹羽勲負（耕三）医学博士は、京都大学医学部を卒業し、医学博士として数々の研究が注目を集めていたときにご子息を白血病で亡くされ、それをキッカケにSODの研究を始めました。副作用がまったくないがん治療薬、がテーマでした。開発には実に



二十年もの歳月が必要でした。

「活性酸素をはじめとする免疫学の研究を通して私が知った、自然の摂理」は、私に大自然のメカニズムの精微さと人間の自己治癒力の偉大さを教えてくれました。病気は自分が治すもの。私は、この理想を患者さんの誰もが実現できるように医師の立場から最大限の努力を続けています。」

先生は今も、土佐清水病院院長として、毎日、医療の現場でがん、アトピー、膠原病などの難病に苦しむ患者さん達の治療にあたっています。また、SODなどを始めとする論文は海外でも高い評価を得、日本のみならず海外の学会で講演をしたり、大学病院で特別講演をしたりと、多忙な日々を送っています。

幸いなことに最近、西洋医療と東洋医療などを統合した医療へと世の中の流れが向かっています。代替医療に対する関心や認識も高まり、丹羽博士が40年も前から言っていた、本来の意味での人を診る診療の時代です。

この会報は、そんな丹羽博士の志を受け、誰もが自分の力で健康でいられるように、難病で苦しむ方が少しでもなくなるようにとの願いを込めたものです。

SOD研究会からのお知らせ

いつもSOD研究会報をご覧いただきありがとうございます。

最近、特に当研究会へお問い合わせいただくことが多い内容についてお知らせ致します。

「丹羽耕三博士のSOD様食品は金の笠のシールが貼られていれば、どこも同じものなのではないか?」というような、ご質問をよくいただきます。

その回答としましては、金の笠（管理番号付）シールは丹羽免疫研究所で分析・検定し、エーパック・ニワ加工工場（土佐清水市）で開発当初から、厳しい品質管理のもとに伝統的な製法で造られる製品だけに貼付される信頼の証（マーク）でした。しかし、ここ数年前より丹羽先生の考えで別の工場で製造されたSOD様食品にも金の笠のシールが貼られ、販売されているものもあります。土佐清水市の工場で製造されたか、そうでないかを見比べる一つの目安が、まず金の笠シールの特徴にあります。

エーパック・ニワ加工工場（土佐清水市）で製造されている製品シールの特徴



原寸大 横 30mm、縦 25mm

- 管理番号は6桁
※土佐清水で製造された証明の通し番号となっています。
- シール左部分に絵や記号が記載されている
※左部分の表示は製品管理の為、不定期に変わります。
- 他の工場で製造された製品と比べ、原末の味や色、粒の大きさが違う場合などがある